

第58回日本実験動物技術者協会総会参加報告

医学系部門生命科学実験班 畠山 照彦

1. はじめに（目的等）

実験動物技術に関する最新の情報を収集し、他機関の技術者と交流をして情報交換することで、今後の業務への知識と技術の向上に生かしたいと考え、本総会に参加した。

2. 期間・場所

期間：令和6年10月10日（木）～10月12日（土）

場所：北九州国際会議場

3. 参加者等

日本実験動物学技術者協会会員、非会員及び学生等、約800名

4. 研修内容

※別紙：日程表参照

5. まとめと感想

日本実験動物技術者協会総会では、作業する現場での創意工夫や、作業の効率化へ向けたアイデアなど、現場視点の演題発表が多く、関連する業務の発表はたいへん参考になる。今回の総会においても、そういった発表がたくさんあった。

今回、特に印象に残った内容として、『現場でつかえるDX（デジタルトランスフォーメーション）技術～技術者目線からの発信～』というテーマで行われたシンポジウムであった。5つの機関からの発表があり、なかでもVR技術を使った教育・研修用技術の演題2つに興味を惹かれた。

一つ目は、公益財団法人実中研による『動物実験技術習得用 Virtual Reality ゴーグルの開発のための実中研の試み』という内容であった。VRは専用のゴーグルで人の視界を覆い「仮想現実」と呼ばれる空間にいる感覚を得る技術であり、仮想現実内の自由な移動やものの移動など没入感の高い体験を可能とする。この技術を用い、実際に動物を使用することなく、動物実験初心者への教育研修に活かすための教材開発を試みた内容が紹介された。当初はコントローラーを介しての操作であったが、自らの手で操作を行うハンドトラッキングが最近の主流となっており、実中研にて開発されたハンドトラッキングによるマウスの保定および各種投与に関するVR技術が紹介され、ヒトと動物、両方の福祉に寄与する教育研究システムであると感じた。別会場で行われた体験会に参加したが、大盛況だったため、自分で体験することはできなかったが、体験者の見ている映像を見て、ここまで技術が進歩したかと驚いた。

※添付写真1：体験会の様子1（撮影許可並びに報告書への添付許可を得ております。）



添付写真 1

二つ目は、東京大学による『仮想現実空間での齧歯類の解剖体験』という内容であった。こちらも VR ゴーグルを使用して、仮想空間で齧歯類の観察、保定、解剖体験を再現するものとなっており、開発背景や使用手順などが紹介されていた。こちらについても別会場で体験会が行われ、実際に VR ゴーグルとコントローラーを使用したマウスの解剖を体験することができた。VR ゴーグルというものを初めて使用したが、本当に目の前にそれがあるような、まさに仮想現実空間での体験で、楽しいという表現が正しいのかわからないが、とても楽しかった。また、グロテスクな表現もかなり緩和されているため、一般の方に体験してもらおう際のウケも良いということであった。ただ、ただ楽しいだけではなく、振動等による没入間で実際にやっているという感覚はあるため、ちゃんとした教育技術であることは間違いないと感じた。

※添付写真 2：体験会の様子 2（撮影許可並びに報告書への添付許可を得ております。）



添付写真2

これら今回の総会で学んだことを活用し、今後の業務に生かしていきたいと考える。

以上